

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日：令和3年3月28日

事業所名：重症心身障害児放課後等デイサービス INGENU

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	新型コロナウイルスの影響により、パーティションやアクリル板を導入し、児童同士のソーシャルディスタンスを保てるよう工夫した。	はい:11 どちらともいえない:0 いいえ:0 わからない:2	新型コロナウイルスの影響により、以前よりも児童同士の間隔を広げているため、よりスペースや動線の確保について話し合いながら児童に過ごしていただける場所を設定している。
	2 職員の適切な配置	必要な職員は常に配置されており、新型コロナウイルスの影響により定員を超える場合、利用人数に合った職員配置を行った。	はい:13 どちらともいえない:0 いいえ:0 わからない:0	配置について保護者の評価は良好で、新型コロナウイルスの影響により定員を超える場合においても、事前に保護者への説明を行っている。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	遮るものはなく、バギーでも動きやすいよう段差をなくし、バリアフリー化している。	はい:12 どちらともいえない:0 いいえ:0 わからない:1	満足される結果であったが、アクリル板等の設置により、前年度より動線を考えて移動する必要があるため、注意しながら支援を行っている。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	新型コロナウイルスの流行後、室内にイオニアミストプロを施工し、毎日の消毒を徹底した。また、プログラムや制作等、活動状況に合わせて空間を確保している。	はい:11 どちらともいえない:1 いいえ:0 わからない:1	評価は良好だが、今後も新型コロナウイルスの影響が懸念されるため、徹底した消毒やソーシャルディスタンスを行ったうえでのプログラムの実施に努める。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	利用児童の目標設定について話し合う機会が増えている。		モニタリングや計画作成時におけるスタッフ間での会議を増やし、議事録を残していくことで、お互いが療育や目標設定について意識を共有していけるよう目指す。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	現在は実施できていない。		今後第三者の介入を検討する
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	コロナウイルスの影響で、研修はほとんど中止となったが、ZOOMやyoutubeでの研修に参加した。		来年度から介助技術の向上を目指し、初任者研修を受けるスタッフが数名おり、資質の向上をはかる。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	アセスメント時に児童や保護者のニーズを聴取し、分析したうえで課題を挙げ、計画書に取り入れるように努めている。		送迎時に保護者から聴取した内容を職員同士共有し、モニタリング前や計画作成時により児童と保護者のニーズや課題に沿った計画を立案していけるよう努める。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	利用児童によって同じプログラムでも方法を変えたり、個別やグループでの活動を行っているが、新型コロナウイルスの影響により、現在は個別での活動がほとんどとなっている。	ほとんどの保護者が「はい」との回答。「どちらともいえない」や「わからない」との回答もあったが意見の記載はなかった。	現在集団での活動は難しいものの、個別や少人数でのプログラムを実施し、連絡帳だけでなく送迎時に直接実施した内容を伝えられるよう努める。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	児童に合わせて支援に必要な項目をそれぞれ設定し、項目についての具体的な支援内容を記載している。		保護者にとって、具体的でわかりやすい計画書を作成していけるよう努める。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	支援計画書で設定した目標や支援内容に沿って、改善するために必要なプログラムや制作を実施している。	はい:12 どちらともいえない:0 いいえ:0 わからない:1	保護者からの評価は良好であるため、今後も計画に沿った適切な支援が行えるよう計画を見返しながら支援を実施する。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	新型コロナウイルスの影響により、利用児童全体での活動プログラムが困難であるため、個別や少人数でのプログラムの立案をはかっている		新型コロナウイルスの影響により、個別や少人数での活動プログラムが中心であるため、少人数でできる新しいプログラムについて職員同士で話し合う機会を増やし、取り入れていけるよう考えていく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	休日や長期休暇は保護者や本人の希望される時間に送迎できるよう調整しており、急な利用希望においても、可能な限り対応し、利用時間に沿った支援(食事介助等)を実施している。	大半の保護者が「はい」との回答だが、「どちらともいえない」や「わからない」との回答もあった	学年が上がるにつれて、平日の利用時間が短くなってくるため、短時間でも児童に合った適切な支援が行えるよう取り組んでいく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	活動プログラムが毎週同じにならないよう適宜話し合っており、同じプログラムでも方法を変え、また違った感覚で楽しめる様工夫している。		職員が増えたため、新しい職員にもいろいろな意見を出してもらい、活動プログラムをさらに発展していけるよう目指す。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	毎日、支援終了後に次の日の利用児童の確認、バギーなどの準備や送迎担当を決め、当日にプログラムや制作の流れ、食事やおやつ介助の担当を確認している。		利用児童によって支援における介助量等が異なるため、今後も支援開始前にしっかりと活動プログラムや役割の確認を徹底していく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	支援終了後に送迎で保護者から聴取した内容や、児童について気付いた点等を連絡ノートやLINEを利用し、職員間で共有できるよう努めている。		支援終了後に振り返りや送迎で得た情報等を共有し、朝のミーティングでも内容を再確認し、情報を共有していく。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	連絡帳に、その日の体温やトイレの回数、制作やプログラムの内容を記載している。また、看護記録も別で作成しており、保管している。		連絡帳に保護者が安心できる、わかりやすい支援した内容を記載できるよう心掛ける。
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	定期的なモニタリングを行い、支援計画書や報告書を見直し、その時の状況に沿えるように見直している		モニタリング後に十分保護者や児童のニーズや課題を考慮したうえで計画書を作成していく。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	同法人内で立ち上げた障害児相談支援事業所の担当児童は増えてきており、利用児童の卒業や進路について、管理者や保護者等と会議を行う機会が増えた。		サービス担当者会議に積極的に参加しており、利用児童にとってよりよいサービスが受けられるよう目指して行く。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	てんかんや熱発等、急変時における対応方法を緊急連絡帳やアセスメントに記載いただいたり、学校に見学に行ったり、担当者会議に参画することで連携した支援が出来るよう努めている。		今後も医療的ケアが必要な児童が利用する可能性があるため、医師や学校との連携を深め、知識や対応方法を共有していく。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	主治医からの情報に準じて看護師が医療的ケアを実施している。		医療的ケアに対する変更点等があれば連絡いただき、看護師と相談の下、協力医療機関と連携をとっていく。
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	現在移行支援は実施していない。		今後児童発達支援事業所から移行の依頼があれば、支援内容についてのサマリーや担当者会議を行い、円滑に移行できるような体制を作っていく。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	来年度から生活介護事業所を立ち上げ、今年弊所を卒業する児童が、継続して安心したサービスを受けられることで、円滑な移行支援を行うことが出来る。		今年卒業する児童は全員同法人の生活介護を利用するため、詳細な情報を得ることが出来る。併用利用する障害福祉サービス事業所への情報提供を行う。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	研修には参加できていないものの、支援センターからの計画書や報告書をコピーさせていただき、スタッフに共有している。		新型コロナウイルスの影響により、今年度は研修等に参加できなかったが、落ち着き次第積極的な参加を目指す。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	まだ実施できていない。	はい:1 どちらともいえない:2 いいえ:0 わからない:10	まだ交流会等を開催できていないため、保護者から「わからない」との回答が多かった。今後は保育所や児童館と交流する機会を作っていく。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	新型コロナウイルス感染症の影響により、毎年参加していた餅つき大会等の地域との交流が今年度は実施できなかった。	チェック項目に記載されていないため、回答なし	今年度は新型コロナウイルスの影響により、地域のイベントがすべて中止となり、外部との関わりが少なかったため、来年度は開催できれば感染対策に十分注意しながら積極的に参加する。



区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に受給者証によってかかる利用者負担額についての説明を行い、モニタリングにて支援内容の説明を行っている。	はい:12 どちらともいえない:0 いいえ:0 わからない:1	「わからない」との意見があったため、契約時や受給者証の更新時等で丁寧に説明し、すべての保護者に理解していただけるよう努める。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	モニタリングで個別支援報告書の説明を行い、現在の学校や自宅での様子を聴取した後、その内容を参考に計画書を作成している。	はい:11 どちらともいえない:0 いいえ:1 わからない:1	モニタリングでの計画書や報告書に対する丁寧な説明を徹底していく。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	現在はまだ実施できていない。	はい:5 どちらともいえない:1 いいえ:2 わからない:5	保護者によっては、利用児童や兄弟等の内容について相談されることもあるため、今後全員が参加できるようなペアレント・トレーニング等の支援を行えるよう進めていく。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	送迎時や連絡帳にて保護者と児童の変化などを連絡し合い、日々やり取りを行っている。	はい:13 どちらともいえない:0 いいえ:0 わからない:0	保護者からの評価は良好であるため、今後も保護者との連絡を密にとり、日々の状況についての共通理解を徹底していく。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	利用している児童だけでなく、その兄妹についての相談をされることもあるため、相談支援事業所と連携し、適切な対応が出来るよう努めている。	はい:11 どちらともいえない:1 いいえ:0 わからない:1	保護者からの利用児童について以外の子育て等の内容についても相談をしやすい環境を作り、適切な対応や助言ができるようスタッフの知識の向上をはかる。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	新型コロナウイルスの影響により、保護者会は実施できず、直接保護者同士が関わる機会を作ることができなかった。	はい:3 どちらともいえない:1 いいえ:5 わからない:4	新型コロナウイルス感染症が終息次第、保護者会を計画し、開催することで保護者同士の連携をはかる。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情などに対応するマニュアルを作成しており、常時担当者を置いている。	はい:10 どちらともいえない:2 いいえ:0 わからない:1	苦情があった場合はマニュアルに従い、迅速で適切な対応を行っていく
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	障害によって意思疎通や情報伝達の方法を配慮している。	はい:12 どちらともいえない:1 いいえ:0 わからない:0	今後も障害について十分理解し、配慮しながら意思の疎通をはかる。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	定期的な会報等は発行していないが、ホームページにてその日の活動や行事の写真を掲載している。	はい:7 どちらともいえない:3 いいえ:1 わからない:2	ホームページの更新を増やし、各保護者に日々の活動内容などの写真を共有できるようにSNSの活用を検討していく。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	契約時に、個人情報利用同意書を説明した上で、署名・捺印をいただいている。	はい:10 どちらともいえない:1 いいえ:0 わからない:2	今後も個人情報保護について書類にて十分に説明し、署名・捺印をいただく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各マニュアルを作成しており、契約時に説明している。今年度より、新型コロナウイルス感染症マニュアルを作成して職員間で共有している。また、防犯訓練や感染症などに対する勉強会は年に一回以上実施している。	はい:9 どちらともいえない:1 いいえ:0 わからない:3	今後も年に1回以上勉強会を実施し、知識の再確認や新しい知識をマニュアルに反映し、スタッフや保護者に周知できるよう徹底していく。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	通常は防犯訓練を避難場所の小学校に協力していただき実施しているが、現在新型コロナウイルス感染症の影響で外出や小学校への移動が難しく、計画のみ作成している。	はい:5 どちらともいえない:1 いいえ:1 わからない:6	新型コロナウイルス感染症の影響が収まり次第、小学校に協力していただきながら防犯訓練を実施していく。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	今年度はリモートで神戸市の虐待研修に参加し、その内容を職員同士で研修し、共有している。		今後も年一回以上の虐待防止研修を徹底し、知識を再確認したり、新しい知識を共有する
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束は行っていない。		今後も身体拘束を行う予定はないが、もしやむを得ない場合があった場合は、十分に保護者の理解を得てから行うよう徹底する
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	現在は食物アレルギーの診断を受けている児童はいない。		利用児童にアレルギーがないからといって安心せず、アレルギーに関する知識をスタッフ全員が身につけ、共有することで適切に対応できるよう心掛ける。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	些細なことでもヒヤリハット報告書を記載するように周知しており、会議の際に内容について検討している。		ヒヤリハット事例を増やし、アクシデントが起こる前に未然に防げるよう常に会議などで事例検討を実施する